舞鶴	工業高等	専門学校	開講年度	令和04年度(2	2022年度)	授業科	日 强	 築設備 I			
科目基礎			1 1 Elder 1 1 X		////	~~ i 1					
<u>行口坐员</u> 科目番号	KEIH+IX	0075			科目区分	専門	/ 必修				
授業形態		授業			単位の種別と単位		履修単位: 1				
開設学科		建設システム	ム工学科		対象学年	5		12. 1			
開設期		前期			週時間数	2					
教科書/教	·····································	大塚雅之「	初学者の建築講座	建築設備」(市							
担当教員		徳永 泰伸									
到達目標	票										
2 冷凍t 3 熱負花 4 空気振	サイクルにて 荷計算法,3 般送設備にて	Oいて説明でき Oいて説明でき 空気線図, 空気 Oいて理解して 平価と省エネル	る。 る。 の状態値について いる。 ギーの手法につい	説明できる。							
ルーブリ	ノック										
			理想的な到達レイ	いいの目安	標準的な到達レヘ	いの目安		未到達レベルの目安			
評価項目1	1		空気調和方式について詳しく説明 できる。		空気調和方式について説明できる。			空気調和方式について説明できない。			
評価項目2	2		冷凍サイクルについて詳しく説明 できる。		冷凍サイクルについて説明できる 。			冷凍サイクルについて説明できない。			
評価項目3	3		熱負荷計算法, 3 状態値について記	見気線図, 空気の ∮しく説明できる	熱負荷計算法,空気線図,空気の 状態値について説明できる。			熱負荷計算法,空気線図,空気の 状態値について説明できない。			
評価項目4	4		空気搬送設備について詳しく理解 空気している。 空気			空気搬送設備について理解してい る。		空気搬送設備について理解していない。			
評価項目5				評価と省エネルギ に詳しく説明でき				建物の環境性能評価と省エネルギ ーの手法について説明できない。			
	到達目標項 育到達度目標	頁目との関係 票(B)	•								
教育方法											
概要		この科目の 【Course C The aim of on.	【授業目的】 この科目の目的は空気調和設備など多岐にわたる建築設備について総合的な理解を得ることである。 【Course Objectives】 The aim of this course is to understand the building services system including air conditioning system and so on.								
【授業方法】 スライドと板書を併用し、講義を中心として授業を進める。また、必要に応じて資料を配布する。 授業の進め方・方法 【学習方法】 1. 事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 2. 授業では板書をノートに写しとること。 3. 復習として教科書などにある演習問題に取り組むこと。								を配布する。			
				る演習問題に取り)組むこと。						
注意点		中間・期末は 試験時間は 【成績の評 2回の定期語 理解の到達 【教員の連 研究室:A 内線番号:	度を評価基準とす 絡先】 東2階(A-221) 8985	5る演習問題に取り う。 〕 〕)とレポート課題 る。				う。到達目標に基づき,各項目の			
	属性・履修	中間・期末は 試験時間は 【成績の評 2回の定期語 理解の到達 【教員の連 研究室:A 内線番号:	の2回の試験を行 50分とする。 価方法・評価基準 試験の結果(70% 度を評価基準とす 絡先】 東2階(A-221) 8985	5る演習問題に取り う。 〕 〕)とレポート課題 る。	の内容(30%)に。			う。到達目標に基づき,各項目の			
授業の属	属性・履修 ティブラーニ	中間・期末は 試験時間は 【成績の評 2回の定期 理解の到達 【教員の連 研究室: A様 内線番号: & e-mail: tok	の2回の試験を行 50分とする。 価方法・評価基準 試験の結果(70% 度を評価基準とす 絡先】 東2階(A-221) 8985	5る演習問題に取り う。 〕 〕)とレポート課題 る。	の内容(30%)に。	は@に変える	3こと)				
授業の属		中間・期末は 試験時間は 【成績の評 2回の定期 理解の到達 【教員の連 研究室: A様 内線番号: & e-mail: tok	の2回の試験を行 50分とする。 価方法・評価基準 試験の結果(70% 度を評価基準とす 絡先】 東2階(A-221) 8985 unagaアットマー	5る演習問題に取り う。 〕 〕)とレポート課題 る。	の内容 (30%) に。 :.jp (アットマーク	は@に変える	3こと)				
授業の原	ティブラーニ	中間・期末は 試験時間は 【成績の評 2回の定期 理解の到達 【教員の連 研究室: A様 内線番号: & e-mail: tok	の2回の試験を行 50分とする。 価方法・評価基準 試験の結果(70% 度を評価基準とす 絡先】 東2階(A-221) 8985 unagaアットマー	5る演習問題に取り う。 〕 〕)とレポート課題 る。	の内容 (30%) に。 :.jp (アットマーク	は@に変える	3こと)				
授業の原	ティブラーニ	中間・期末は 「成績の評 「ので知達」 「教員の連編 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 では、	の2回の試験を行 50分とする。 価方法・評価基準 試験の結果(70% 度を評価基準とす 絡先】 東2階(A-221) 8985 unagaアットマー	5る演習問題に取り う。 〕 〕)とレポート課題 る。	の内容 (30%) に。 :.jp (アットマーク □ 遠隔授業対応	は@に変える	3こと)				
授業の原	ティブラーニ	中間・期末は 「成績の評 「関係で記 「対してでででする。 「対してででする。 「対してでする。 「対してでする。 「対してでする。 「対してでする。 「対してでする。 「対してでする。 「対してでする。 「対してでする。 「対してでする。 「対していてでする。 「対していていていていていていていていていていていていていていていていていていてい	の2回の試験を行う 50分とする。 価方法・評価基準 試験の結果(70% 度を評価基準とす 絡先】 東2階(A-221) 8985 sunagaアットマー	5る演習問題に取り う。 〕 〕)とレポート課題 る。	の内容 (30%) に。 :.jp (アットマーク □ 遠隔授業対応	は@に変える	3こと)				
授業の原	ティブラーニ	中間・期末は 「成績の評」 「成績の評」 「対員ので到達」 「教員の連 研究を書号: A を一mail: tok を上の区分 こング	の2回の試験を行う 50分とする。 価方法・評価基準 試験の結果(70% 度を評価基準とす 絡先】 東2階(A-221) 8985 sunagaアットマー	5る演習問題に取り う。 】 とレポート課題 る。 -クmaizuru-ct.ac	の内容 (30%) に。 :.jp (アットマーク □ 遠隔授業対応	は@に変える	3こと)				
授業の原	ティブラーニ	中間・期末は は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	の2回の試験を行う 50分とする。 価方法・評価基準 試験の結果(70% 度を評価基準とす 絡先】 東2階(A-221) 8985 :unagaアットマー □ ICT 利用 単内容 ラバス内容の説明	5る演習問題に取り う。 】)とレポート課題 る。 -クmaizuru-ct.ac	の内容 (30%) に。 :.jp (アットマーク □ 遠隔授業対応	は@に変える	3こと)				
授業の原	= ブラーニ	中間・期末は 「成績の評論 「関係のででは、 「対域ででは、 「対域ででは、 「対域ででは、 「対域ででは、 「対域ででは、 「対域では、 「対域では、 「対域では、 「対域では、 「対域では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	の2回の試験を行う 50分とする。 価方法・評価基準 試験の結果(70% 度を評価基準とす 絡先】 東2階(A-221) 8985 よいnagaアットマー □ ICT 利用 単内容 ラバス内容の説明 気調和設備の概談	5る演習問題に取り う。 】)とレポート課題 る。 -クmaizuru-ct.ac	の内容 (30%) に。 :.jp (アットマーク □ 遠隔授業対応	は@に変える 週ごとの到達 1	3こと)				
授業の原 □ アクテ 授業計画	ティブラーニ	中間・期末は 関係 関係 関係 関係 関係 関係 関係 関係	の2回の試験を行う 50分とする。 価方法・評価基準 は験の結果 (70% 度を評価基準とす 終年】 東2階(A-221) 8985 sunagaアットマー □ ICT 利用 業内容 ラバス内容の説明 気調和設備の概認 源と冷凍サイクル	5る演習問題に取り う。 】)とレポート課題 る。 -クmaizuru-ct.ac	の内容 (30%) に。 :.jp (アットマーク □ 遠隔授業対応	は@に変える 週ごとの到道 1 2	3こと)				
授業の原 □ アクテ 授業計画	= ブラーニ	中間・期末は 「成績定期達」 「関係の子子子子子」 「関いた」 「関係の子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子	の2回の試験を行う 50分とする。 価方法・評価基準 試験の結果 (70% 度を評価基準とす 終先】 東2階(A-221) 8985 sunagaアットマー □ ICT 利用 業内容 ラバス内容の説明 気調和設備の概訪 源と冷凍サイクル 気線図	る演習問題に取り う。 】 とレポート課題 る。 -クmaizuru-ct.ac	の内容 (30%) に。 :.jp (アットマーク □ 遠隔授業対応	は@に変える 週ごとの到達 1 2 3	3こと)				
授業の属	= ブラーニ	中間・期末はは 「はい。 「は、 「は、 「は、 「は、 「は、 「は、 「は、 「は、	の2回の試験を行う 50分とする。 価方法・評価基準 試験の結果 (70% 度を評価基準とす 終先】 類2階(A-221) 8985 sunagaアットマー □ ICT 利用 単内容 ラバス内容の説明 気調和設備の概款 源と冷凍サイクル 気線図 気の状態変化	5る演習問題に取り う。)とレポート課題 る。 -クmaizuru-ct.ac	の内容 (30%) に。 :.jp (アットマーク □ 遠隔授業対応	は@に変える 週ごとの到近 1 2 3 3	3こと)	う。到達目標に基づき,各項目の 実務経験のある教員による授業 			
授業の原 □ アクテ 授業計画	= ブラーニ	中間・期末は 関係 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「	の2回の試験を行うの分とする。 「一方法・評価基準 は験の結果 (70% 度を評価基準とす 格先] 東2階(A-221) 8985 にいる国のでは、 1CT 利用 「「一」 ICT 利	5る演習問題に取り う。)とレポート課題 る。 -クmaizuru-ct.ac	の内容 (30%) に。 :.jp (アットマーク □ 遠隔授業対応	は@に変える 週ごとの到達 1 2 3 3 3	3こと)				

		10ì	<u></u>	熱負荷	負荷計算その2			3				
		11ì	11週 熱		熱搬送機器			4				
	12週 13週 14週 15週		围	ダクト内の圧力変化		ե		4				
			围	ダクトの計画 その		01		4				
			围	ダクトの計画 その		D2		4				
			围	建築物の環境性能評		平価 5						
	16週 🗼		(15週目の後に期末試験を実施) 期末試験返却・到達度確認									
モデルコ	アカ!	リキュ	ラムの	学習	内容と到達	目標						
分類	分類 分野				学習内容	学習内容の到達目標 到達レベル 授業					授業週	
						室内環境基準につい		4	前1			
					環境・設備	熱負荷計算法、空勢	4	前4,前5,前 6,前7				
専門的能力	分野	分野別の専 門工学		分野		空気調和方式について説明できる。				4	前2	
	, ,					排煙設備について説明できる。				4	前12	
						エネルギー削減に))を適用することだ	4	前13,前 14,前15				
評価割合												
		試験	発		 表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合	+	
総合評価割合		70		0		0	0	30	0	10	0	
基礎的能力		0	0 (0	0	0	0	0		
専門的能力 70		70	0			0	0	30	0	10	0	
分野横断的能力 0		0	0			0	0	0	0	0		